

遠野市の防災について



照井 文雄 議員
(清風会)

問 各町への防災倉庫を配備し、機能を充実させるべきと考えるが、当局の考えは。

答 昨年の東日本大震災後、速やかに補正予算を計上し、各地区へ発電機や反射式ストーブ、燃料携行缶、電灯付きラジオ等の防災資機材を配備したところである。また、消防団の安全活動を充実させるため、救命胴衣も整備した。これらの保管場所としての防災倉庫等については、現在コミュニティ消防センターやコン

テナ式防災倉庫、旧消防屯所、旧JA倉庫などを活用し、各町に11か所、水防倉庫は3か所設置している。

今後の防災倉庫の整備については、更新時期を見据え、地域防災計画との整合性を図り、長期計画の中で検討していく。

問 「永遠の日本のふるさと遠野」にふさわしい景観を望むものだが、河川内の立木をそのまま放置しておいて良いのか。当局の考えを伺う。

答 「永遠の日本のふるさと遠野」を将来ビジョンに据える当市にとって、河川の景観保全は重要な取り組みである。

その一つとして、市民協働で行われている市内一斉河川清掃も、景観保全の取

り組みと認識している。また、一級河川の立木については、管理者である岩手県に要望し、協議を進める。平成23年度は、県において猿ヶ石川の光興寺地区を含め、市内6地区6・6ヘクタールを伐採し、一部河道掘削を実施した。今後もうした取り組みを重ねながら、河川の景観保全に努めていく。



速やかな環境保全が求められる猿ヶ石川